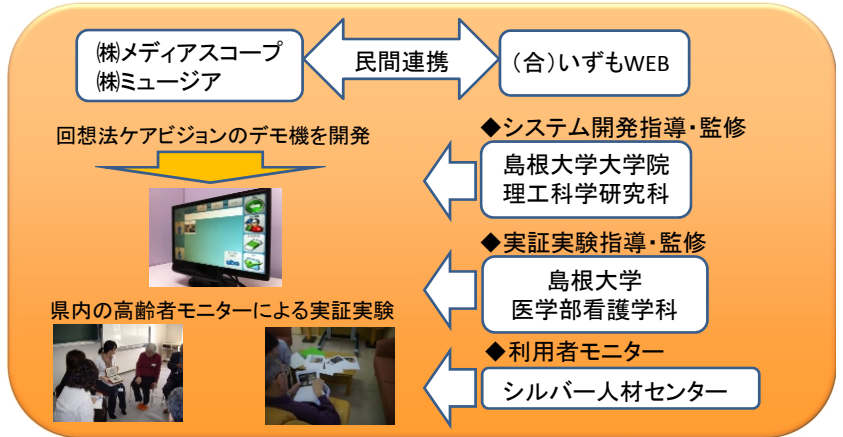


平成27年度 島根発ヘルスケアビジネス  
先進モデル構築支援事業

## 認知症高齢者および介護支援者への 支援システム「回想法ケアビジョン」の開発

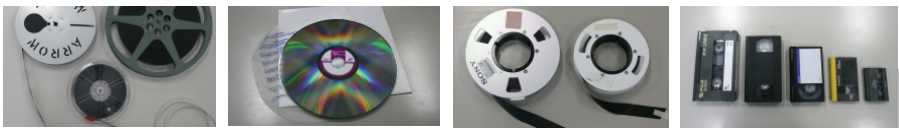
代表事業者：株式会社メディアスコープ  
参加事業者：株式会社ミュージア  
                  合資会社出雲Web  
指導・監修：島根大学大学院理工科学研究科  
                  島根大学医学部看護学科

### ◆回想法ケアビジョンの開発・効果検証実施体制



### ◆デジタルアーカイブの必要性

現在、映像の記録媒体はDVDからBlu-ray Discへと変化している。古くはVHSテープ、8mm・16mmフィルムが主流であったが、現在ではVHSテープですら再生機が無くなってきており、その内容を見ることも困難になっている。今ではこれら記録媒体の多くが捨てられている現状がある。家庭や行政などに残されている古い記録媒体には、その家族や地域の行事などが記録されており、これら映像は回想法にとっては非常に有益なコンテンツとなる。したがって、回想法の取り組みを通して、このような古い記録媒体の価値が再評価され、これらが後世に残されていく仕組みを構築する。



### ◆地域資源

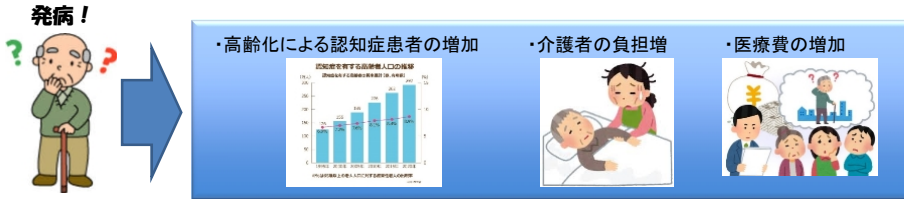
所有のコンテンツ及び撮影によりコンテンツを制作



(1) 県内公的機関が保有している映像資産  
県内公的機関が保有している歴史、文化、自然、生物、景観、祭礼、風俗、食、季節、芸能などの映像資産。弊社はH26.5に県内100箇所余りの公的機関にアンケート調査を実施し、約10,000本の映像が博物館、美術館、教育機関等の保有されていることがわかった。

(2) 県内の個人が保有している映像資産  
行政だけでなく個人が保有している映像資産も地域資源と言える。ただ、これはどのような内容の映像がどれだけあるかなどは不明。しかし、今後は個人が保有している映像資産が大きな役割を果たしていくものと思われる。

## ◆高齢化社会がもたらす認知症による社会的課題



高齢化が急速に進展する中、**認知症高齢者の増加が社会問題**となっている。認知症の**症状として、記憶障害、理解・判断力の低下、さらには精神不安定や日常生活への適応困難**などがあるが、これら認知症高齢者に対する**ケアが必要**となっている。また、認知症高齢者をケアする**介護支援者の負担も非常に大きい**ものであり、**介護支援者の負担軽減**および**介護の質の向上**も図っていく必要がある。

## ◆回想法の効果

回想法には、認知症高齢者の思い出を蘇らせることにより、認知症の進行を遅らせることや精神的な安定をもたらす効果が期待できるとの研究も進んでいる。

もちろん、今回のプロジェクトではこれら全てを網羅した実証実験を行うものではないが、現在の研究では回想法の効果としては次表のとおり報告されている。

効果の分類	効果の内容		
認知機能面	・注意力の改善 ・怒りの減少	・記憶力の改善 ・敵意の減少	・問題行動の減少
精神機能・感情面	・抑鬱の改善 ・参加意欲の増加 ・疲労感の軽減	・無気力の改善 ・喜びの増加	・落込みの改善 ・楽しみの増加
身体機能行動面	・引き籠りの改善 ・活動の積極性の増加 ・他者との交流の増加 ・対人コミュニケーションの活発化	・全体的健康感の改善 ・身体の痛み/無さの改善 ・外出状況の向上	・I-ADLの改善 ・身体的機能向上

※I-ADL (日常生活動作に関連した買い物・料理・掃除等の動作改善)

津田恵理子, 「回想法への期待」より作成, p329, 2007年

## ◆まとめ

- 静止画や動画を見ながら思い出を語ることについて、高齢者自身はどう思うか？
  - 高齢者にとって、思い出を語ることは楽しい。
- 高齢者の語りを引き出すうえで、静止画と動画のどちらが有効か？
  - 動画の方が、静止画より高齢者の語りを引き出せていた。
- どのような内容のコンテンツが有効か？
  - 高齢者自身が体験したことがあり、加えて、様々な場面や動きを含む動画が高齢者の語りを引き出すのに効果的である。

## ◆回想法ケアビジョンの効果

高齢者が

- 表情豊かに話ができる
- 記憶を蘇らせやすい
- 使いやすい
- 楽しく会話できる

これらの可能性を見出せた!

- ・認知症予備群の脳の活性化(認知症予防)
- ・介護者(ケアマネージャー・家族)とのコミュニケーション潤滑化
- ・認知症進行の抑制・精神的安定